

令和6年度 全国学力学習状況調査の結果

京都市立九条塔南小学校
校長 石原 通雄

4月18日に、全国の6年生を対象に実施されました「全国学力学習状況調査」について、結果がまとめました。この調査では、学力調査(国語・算数)と児童への質問調査(学習面・生活面など)が行われました。本校の子どもたちの状況をお知らせします。

総合結果

国語科・算数科ともに平均点が全国平均を上回る結果となりました。また、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらの領域についても、国語・算数ともに全国平均を上回っていました。各教科で得た知識や技能が定着していることに加え、それらを活用しながら課題を解決したり、自らの考えを表現したりすることについて、一定の成果が見える結果となりました。

漢字の書き取りに加え、「話し言葉」と「書き言葉」の違いを明確にし、正しく使い分けることに関する設問はよくできていました。また、インタビューした内容のメモをもとに、目的や内容に応じて話題を整理したり、自分の伝えたいことを明確にするために資料を分類・活用すること、そして、それらの資料を活用しながら考えを伝わりやすく工夫することについても、全国平均より高い結果となりました。各教科・領域の中で情報活用能力の育成を目指し取り組んできた結果が表れていることが分かります。

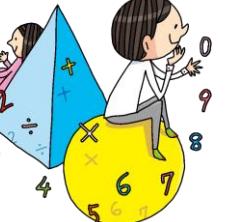
一方で、物語文から具体的な人物像を想像したり、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることについて課題が見て取れました。物語を深く読み味わうためには、文章表現の理解にとどまらず、文章に現れない心情の変化などを捉えることが大切です。物語における人物像や相互関係、心情変化を捉えるため、叙述や会話の様子から登場人物の性格や人間関係を捉えることに加え、叙述の違いや、会話のちょっとした変化から、人物の心の揺らぎや、文章に現れない【行間】を想像し、物語の内容を読み深めながら内容を捉える活動を大切にしていきます。



国語科

問題文から状況を捉え、場面や数量関係を理解したうえで立式したり、計算を正確に行ったりする設問については高い正答率でした。また、球と立方体の関係など、これまでに学習した複数の単元を関連付けて考える問題についても、全国平均より高い正答率でした。基礎基本となる計算の正確性に加え、知識を関連付けて考える力が身に付いていることが分かります。

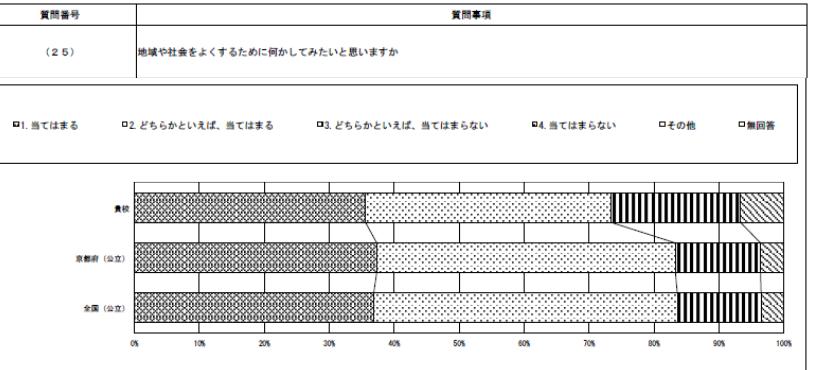
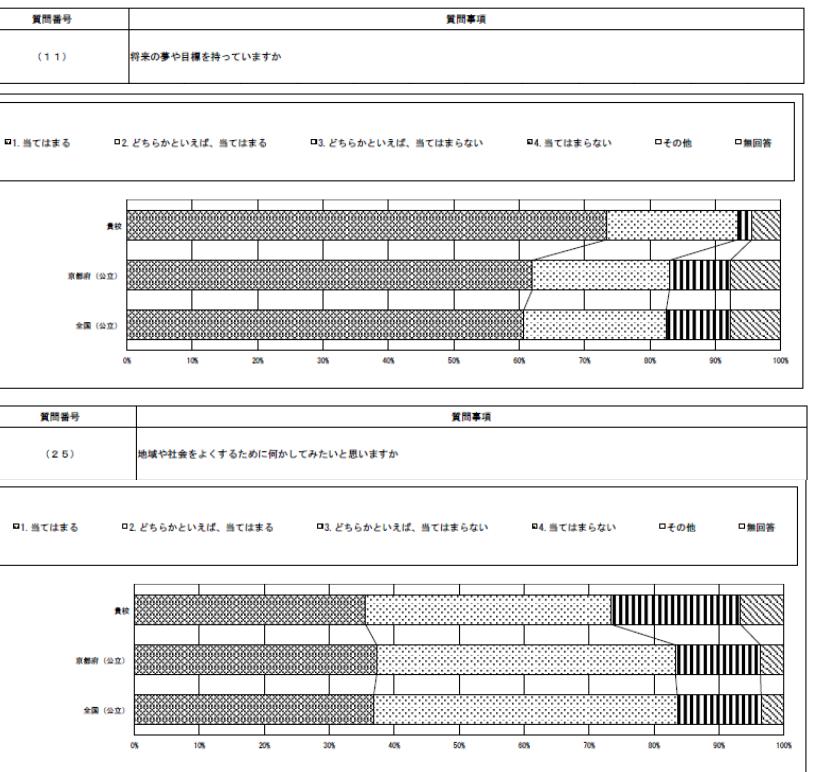
一方で、表やグラフなどから条件に合うものを選び取って記述したり、多くの情報を整理したうえで、割合を導き出したりする問題に課題が見られました。データを取り扱う際には、数だけを見るのではなく、その数値が何を表しているのか、ほかの情報との関係性はどうなっているかまで考えながら扱うことを大切にしていきます。



算数科

質問紙調査より

児童質問紙調査では、日々の学習への意識や、家庭での生活状況などの質問調査を行いました。その結果より特筆すべき設問について抽出しました。



質問紙調査の「将来の夢や目標持っていますか」という質問では、「当てはまる」と回答した児童が全国平均を大きく上回っています。学校教育目標として「夢や希望に向かう子ども」を掲げ、総合的な学習や学校行事を中心に「生き方探究」の学びを積み上げてきたことで、子どもたちが将来への希望を高めている様子が見て取れます。

一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問では、否定的な回答が全国平均を上回っており、地域とのつながりやかかろうとする気持ちが低くなっていることが分かります。生活科や総合的な学習等を通して地域とかかわる活動を積極的に取り入れ、地域の一員としての自覚を持ち、地域や社会をよりよくしていきたいという気持ちを高められるようにしていきます。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「心豊かにたくましく 夢や希望に向かう子どもの育成～つなげよう つなげよう 九条塔南の子～」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆さまのご協力を得て、取組をすすめています。

その中で、特に「夢や希望に向かう子ども」が目指すものは、学校での授業の中で身につける「基礎的・基本的な知識や技能」だけではなく、知識や技能を活用し、課題解決のために必要である「思考力・判断力・表現力」、そして卒業した後も、夢の実現や課題の解決に向け、「生涯にわたって自ら学びに向かい続ける力」等を身に付けることです。そのためには、学校だけでなく、家庭における自主学習の習慣を身に付け、自分たちで見通しを立てて計画的に学習を進めていく力を身に付けていくことが大切です。

また、多くの種類の本に親しみ、物語の世界に浸ったり、先人の知恵を知ったりする中で、子どもたちの想像力が広がり、読解力が身についていきます。加えて、読書の習慣を身につけていくことで、自分たちが疑問や課題をもった時に様々な資料を探したり、それらを比べて考えをまとめたり、情報を整理して新しい考えを生み出したりする力にもつながります。

本校では令和3年度より、「総合的な学習の時間」「生活科」を研究教科として学習を進めています。学んだことや身につけた力をいかし、夢や希望の実現につなげられるように日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

GIGAスクール構想をはじめ、子どもたちを取り巻く教育環境は大きく変わってきていますが、保護者や地域の皆様のご理解・ご協力を賜りながら、教育活動を進めてまいりたいと思います。

保護者の皆さんへ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。この調査をもとに、本校児童の学力・学習状況の傾向を知り、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

学力は、子どもたちが学校や家庭・地域で取り組んでいることが積み重なっていくことで、定着しています。また、基本的な生活習慣や日々の学習習慣が、学力の基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

